

福岡市における旧型の街区表示板の分類

小 出 秀 雄

要 旨

街区表示板とは、「住居表示に関する法律」(昭和37年法律第119号)に基づき住居表示を実施している地域で見られる、町名(～丁目など)と街区符号(～番)を表示している板である。本稿では、筆者が住んでいる福岡県福岡市の住居表示施策を例に、街区表示板の変遷と種類を明らかにする。これは、筆者が福岡市内を歩き回って発見した414枚の「旧表示板」(2020年11月14日時点)をもとに、福岡市発行の各種文献を参照しながら、独自に作成したものである。そして、これまでの調査の経験に基づき、そのような旧表示板が遺っている状態を仮説的に分類する。最後に、このような視点でのまち歩きが、「創造的なまち歩き」となりうることを主張する。

キーワード：住居表示，街区表示板，政令指定都市，まち歩き

1. 本稿の背景と目的

街区表示板とは、「住居表示に関する法律」(昭和37年法律第119号)に基づき住居表示を実施している地域で見られる、町名(～丁目など)¹と街区符号(～番)を表示している板である。市区町村は義務として、「区域の見やすい場所に」、「表示板を設けなければならない」(同法第8条)。街区表示板はあり

1 福岡市内には、「丁目」がない町名も多く存在する。特に、歴史のある旧博多部(博多駅より北西、博多湾・御笠川・那珂川に囲まれたエリア)は、「～町(まち)」のみで構成されている。

ふれたまちの風景の一部ではあるものの、実はよく見ると、表示内容の異なるものがまれに存在する。

本稿では、筆者が住んでいる福岡県福岡市の住居表示施策を例に、まず街区表示板の変遷と種類を明らかにする。

現在福岡市の街区表示板は、行政区名が「横書き」で「ローマ字」併記のものが主流であるが、約30年前までは行政区名が「縦書き」の板が主流だった。福岡市内で住居表示が開始され、珓瑯（ほうろう）製の街区表示板が設置され始めたのは1962年5月のことであるが、これは全国初の施策だった。また、1988年12月から1989年度にかけて、区名縦書きの街区表示板が、前述の区名横書き・ローマ字併記のものに貼り替えられた。この総貼り替えも、全国の自治体に先駆けての事業であった。

続いて、筆者が福岡市内を歩き回って発見した414枚の「旧表示板」²を分類し、各区の状況に関してそれぞれ概観する。

福岡市は1972年4月1日に政令指定都市となり、東区・博多区・中央区・南区・西区の5行政区が発足した。その10年後の1982年5月10日、人口が急増したそれまでの西区が分区し、新たに城南区と早良区（さわりく）が発足した。したがって福岡市は現在、東区・博多区・中央区・南区・城南区・早良区・西区の7区で構成されている。それぞれの区の歴史や規模が異なるため、旧表示板が見つかる頻度や数にも差があると思われる。とはいえ、住居表示が古いまちだから旧表示板が多いかといえば、そうでもない。

そして、この歩行調査の経験に基づき、旧表示板が遺っている状態を仮説的に分類する。約30年前に現行の区名横書き・ローマ字併記板が設置されたにも関わらず、なぜ旧型の街区表示板がこれほど多く現存しているのだろうか。この疑問に回答するには現時点で分析が十分ではないため、あらためて別の機会に論じたい。

最後に、旧表示板に注目するこのような視点でのまち歩きが、「創造的なまち歩き」となりうることを主張する。

2 旧表示板がそのまま遺っている場合もあれば、板の一部や大部分が欠損していたり、重ねられた表示板がはがれて旧表示板が一部露出したり、といった場合もある。

2. 福岡市の住居表示施策と珽瑯板の設置

まず、福岡市の住居表示に関する主な施策を、図表1に示す。

年/月	出来事
1962/5	「住居表示に関する法律」施行 福岡市議会に、「住居表示に関する法律第三条第一項の市街地の区域及び当該区域における住居表示の方法について」（議案第147号）が提出
1962/8	春吉・高宮地区の町界町名整理・住居表示実施。同実施は全国初。実施に先立ち、街区表示板を設置
1963/6	草ヶ江・鳥飼地区の町界町名整理・住居表示実施
1964/2	平尾地区の町界町名整理・住居表示実施
1964/3	「福岡市住居表示に関する条例」施行
1964/6	福岡地区の町界町名整理・住居表示実施
1965/2	長尾地区の町界町名整理・住居表示実施
1966/2	博多・荒戸地区の町界町名整理・住居表示実施。以降略。
1972/4	区制施行（→5区）
1982/5	行政区再編成（→7区）
1988/12～89	街区表示板をローマ字併記に取り替え。表示板自体を刷新するのは全国初。

出所：『福岡市史』『福岡市議会議案』『福岡市政だより』をもとに筆者作成

図表1 福岡市の主な住居表示施策

1962年5月に国の「住居表示に関する法律」が施行されたが、早くも同月の28日付けで福岡市議会に、市街地における住居表示実施の議案が提出された。その冒頭の「理由」を、以下に引用する。

本件は、従来の町名地番による住居表示が混乱している現状にかんがみ、市民及び一般行政事務の利便を計るため地番とは別に住居のみを対象とする住居表示制度を実施するため、住居表示に関する法律第三条第一項の市街地の区域及び当該区域における住居表示の方法を定めることについて議会の議決を求めるものである³。

3 引用元：住居表示に関する法律第三条第一項の市街地の区域及び当該区域における住居表示の方法について（『昭和37年第2回福岡市議会臨時会』議案第147号、昭和37年5月28日）。

ここでいう市街地とは、東は那珂川、西は樋井川、南は国道202号・西鉄天神大牟田線・旧国鉄筑肥線に囲まれた区域を指す⁴。この区域は、現在の中央区の東側と、北側の半分ほどに相当する。住居表示を始めるにあたり、博多湾と川、道路、線路で囲まれた、比較的わかりやすいエリアが指定されたことになる。

1962年8月には、現中央区の東側に位置する春吉・高宮地区（西中洲、春吉1～3丁目、渡辺通1～5丁目、清川1～3丁目、高砂1～2丁目、白金1～2丁目、大宮1～2丁目、那の川1～2丁目）において、町界町名の整理と住居表示が実施された。これが、わが国初の住居表示実施である。

写真1はその1962年の住居表示の際に設置された、珫瑯製でスポンサーが明記された街区表示板である。市の条例が施行されたのは1964年3月であるので、いかに迅速に住居表示が進められたのかがわかる。

その後、図表1に示した地区の順に、住居表示が実施されていった。

写真2に示す2枚のスポンサー入り街区表示板は、1963年6月の草ヶ江・鳥飼地区の住居表示で設置されたものであり、写真1と同じ珫瑯製である。これらを、「珫瑯板」と名付けることとする。筆者がこれまで見つけた珫瑯板は、この3枚だけである⁵。なお、写真2の右の鳥飼板（現中央区）は、隣の家屋の取り壊しと塀の削減に伴い消失していたのを、2019年12月に確認した。

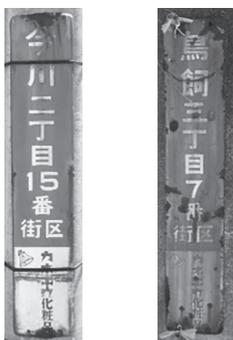


出所：筆者撮影（2019年9月12日）

写真1 住居表示制度に基づく最初の街区表示板

4 同議案の別図をもとに、筆者が表現している。

5 なお、現行板にぴったり重ねられた状態の珫瑯板は、同じく鳥飼3丁目と六本松2丁目で見つかったことがある。この鳥飼板は2020年の春から夏の間に、家屋の取り壊しとともに消失した。ちなみに、このような表面がまったく見えない旧表示板は、発見数にカウントしていない。



出所：筆者撮影（2019年6月24日）

写真2 鳥飼地区で見つけた珽瑯板（右は消失）

細かい点ではあるが、写真1の街区符号の末尾が「街区」であるのに対して、写真2の末尾は「番街区」である。つまり、「○番」という名称の方が早々と、「○街区」より優先されるようになった。前述の条例案が提出されたときの市議会会議録には、街区符号に関する国の指示が短期間で変わったとみられる発言が残されている。

都市計画課の事業として住居表示法により、（略）全国に先がけて、着々と進捗いたしましたことはけっこうなことである。しかしながらこの移行に伴ない街区移行の表示が、その呼称が第一次は何々街区第二次は何番で、各般に混乱を来たし、これがため調整事務にも支障を来たしておることはなほ遺憾である。これが自治省の指示であったといたしましても、この是正には万全を尽くすべきものである⁶。

6 引用元：『昭和39年第1回福岡市議会定例会会議録』昭和39年3月2日、97-98頁、原文通り。

3. 区なし鉄板は3種類

前節ではスポンサー入りの珫瑯板を紹介したが、珫瑯製は長く続かなかったようであり、1962年と1963年の住居表示実施分しか現物が見当たらない。珫瑯製に代わって、1964年以降は街区表示板として、町名と街区符号が転写された鉄製の板が使用されるようになった。

ここで、1972年4月に政令指定都市になる前の鉄製の街区表示板を、「区なし鉄板」と名付けよう。区なし鉄板は、筆者が知る限り3種類存在する。

写真3は、区なし鉄板を古い順に3枚並べたものである。荒戸（現中央区）は1966年2月、博多駅前（現博多区）は1969年7月、田島（旧西区→現城南区）は1971年7月に、それぞれ住居表示が実施された。なお、最も古い区なし鉄板は、1964年6月に住居表示された長浜（現中央区）で見つっている⁷。



出所：筆者撮影（2019年10月4日，同3月19日，同3月30日）

写真3 区なし鉄板の例

前述のように、珫瑯板では街区符号の末尾が、「街区」（1962年）から「番街区」（1963年）に変化した。その後鉄製・転写に切り替わり、街区符号の末尾は「番（街区）」、「番」へと変わった。福岡市の詳細な記録により、各地区の住居表示の時期がわかっているため、このように表示板のつくりの変遷を追うことができる。

⁷ 表面の破損が著しいため写真は掲載しないが、つくりは1966年製の荒戸板（写真3の左）と同じである。

さらに、細かい点に注目したい。表示板の字の太さに関しては、太字から細字になり、やや太字へと戻ったことがわかる。また、文字部分の加工が、平面への転写から、やや浮き出した形へと変化している。この間表示板の製造業者が代わったと思われるが、劣化の仕方もそれぞれ異なる。これらの鉄板は、半世紀近くも「まち案内」を続けている公共財としても、大変貴重である。

筆者はこれまで区なし鉄板を、1964・65・66・68・69・70・71・72年に住居表示されたエリアでそれぞれ発見している。そしてこれまでのところ、1966年までは「番（街区）」の表記で、1968年からは「番」の表記であることがわかっている。残る1967年製の発見で変更時期がわかるが、同年に住居表示された今泉、薬院、警固（けご）、桜坂など（現中央区）は都心部で再開発が進んでおり、50年以上前の鉄板を見つけるのは極めて難しい。

なお、1972年4月に住居表示が実施された平尾では、写真3とは明らかに異なる仕様の区なし鉄板と合わせて、中央区と書かれた小さな「区のみ鉄板」が見つかっている。まず住居表示と街区表示を先行実施し、4月に区制施行されてから区のみ鉄板をその上に貼った、と考えられる⁸。

4. 区あり鉄板の謎

現在中央区の春吉・高宮地区では、鉄板に区名も入った「区あり鉄板」が3枚見つかっている。いずれも、福岡市ならびにわが国における住居表示実施の「スタート地点」である⁹。そこで当初筆者は、「1972年4月の区制施行のタイミングでアルミ製に貼り替える予定だったが、まず春吉・高宮地区でフライニング的に新しい住所の表現を鉄板でアピールし、その後アルミ製に貼り替えた」と推測していた。区あり鉄板が、ほかの地域で見当たらなかったからである。

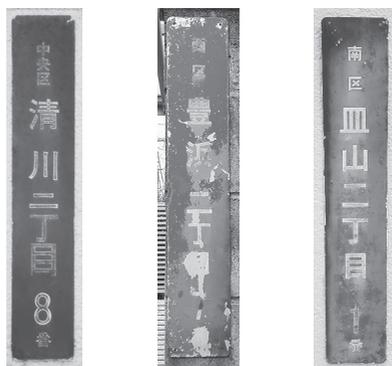
8 本節のタイトルは「区なし鉄板は3種類」であるが、この「新種」を入れると4種類である。とはいえ、ある程度まとまった数が見つかったものは3種類であるため、現時点では3種類としておく。

9 筆者は清川で2枚、渡辺通で1枚発見した。清川板のうち1枚はなぜか黒塗りで、町名などはなぜか手書きである。渡辺通板は2019年12月に見たら、スプレーで落書きされていた。

ところがその後、2020年4月に西区豊浜で、7月に南区皿山で、8月に中央区那の津で、それぞれ区あり鉄板を見つけた。

写真4は、中央区清川、西区豊浜、南区皿山で発見した区あり鉄板である。清川板は文字間隔が不揃いで、即席の印象がある一方、豊浜板と皿山板はほぼ同じ仕様であることがわかる。

これで、この鉄板が住居表示のスタート地点においてフライング的に貼られた、という推測は外れたことになる。筆者はこれまで、区あり鉄板を9枚、区なし鉄板を25枚見つけたが、相対的に新しい区あり鉄板が非常に少ないのはなぜか、答えを見出せていない。



出所：筆者撮影（2019年3月27日，2020年4月26日，同7月30日）

写真4 区あり鉄板の例

また、鉄製からアルミ製への貼り替え時期も不明である。

西区豊浜（1～2丁目）では1973年7月に住居表示が行われ、字がほとんど読み取れないものばかりであるが、町内には区あり鉄板が4枚も遺っている。政令指定都市になって1年以上経ってからも（当時は）新しい鉄板が設置されたということは、ほかの地域でも同様に鉄板が貼られているはずである。その結果、もっと多くの鉄板が遺っていてもいいと思うが、実態はそうではない。

以上より、区入り鉄板が少ない理由とアルミ製への貼り替え時期の解明は、引き続き課題である。

5. 「旧区板」を含む5区板と7縦板

5区が発足した1972年4月から（暫定）、7区に再編成された1982年5月まで設置されていた区名入りの街区表示板を、「5区板」と名付けることにする。つまり5区板は、(1) 1972年4月以前から存在するまちの区名入り板と、(2) 1972年4月～1982年5月に町界町名整理・住居表示実施が行われたまちの区名入り板の2種類である（外見はまったく同じである）。5区板以降は、すべてアルミ製である。アルミ製は耐久性に優れ、裏から文字を打ち抜くことで表示を鮮明にできる。

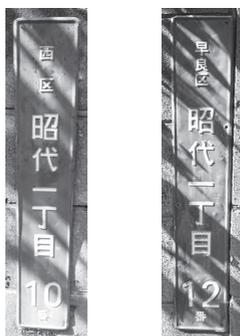
冒頭で述べたように、5区時代の西区が人口急増のため再編成せざるをえなくなり、それによって城南区と早良区が新たに発足した。この2つの区の名称は、公募によって決定された¹⁰。また、この再編成のタイミングで、それまで南区だった平和3丁目・平和5丁目・小笹（おざさ）1丁目、および西区だった小笹2～3丁目・笹丘1～3丁目は、すべて中央区に編入された。

ここで、1972年に西区となり、その10年後に早良区になったまちの表示板を紹介する。

写真5は、どちらも昭代（しょうだい）1丁目の表示板であるが、左は西区（5区）時代のもの、右は現在の早良区のものである。左は5区板ではあるが、現在昭代は西区ではないので、これを特に「旧区板」とよぶことにする。

他方、写真5の右は厳密にいうと、福岡市が7区となった1982年5月から1988～89年頃（理由は後述）までに設置された表示板である。現在貼られている表示板とは違い、区名が（5区板と同様）縦書きで、下部にローマ字が記載されていない。これを以下では、「7縦板」とよぶ。5区時代から続いている区においても、この期間内に住居表示が実施されたまちの縦書き板は、この7縦板に含める。

10 『福岡市史 第9巻・昭和編続編（一）』によると、城南区の選定理由は、(1)市民からの応募が大多数である、(2)城址の南側に位置する地域でわかりやすく、歴史のかつ包括的な地名である、(3)城南小・中・高校などの名称もあり、住民になじみ深く、やわらかい響きがある、などである。また、早良区の選定理由は、(1)市民からの応募が多数である、(2)古くから由緒ある名称、かつての郡名であり、歴史のかつ包括的な地名である、などである（698-699頁）。



出所：筆者撮影（2020年8月30日）

写真5 旧区板（5区板）と7縦板の例

筆者はこれまで早良区で、西区と書かれた旧区板を6枚発見している（昭代1枚、西新^{にしじん}2枚、藤崎1枚、百道^{ももち}2枚）が、城南区での発見ではゼロである。城南区の住宅街を歩くと、西区と書かれたアパートの看板や表札をたまに見かけるものの、西区時代の街区表示板は、不思議に思うほどまったく見当たらない。城南区になったときに旧区板が徹底的に外されたのだと、筆者は推測する。

これまで筆者が発見した5区板は224枚、7縦板は153枚である。

6. ローマ字が併記された横書き板

「横書き板」は、1988年12月から1989年度に貼り替えられた、福岡市で現在使用されている街区表示板である。ローマ字併記がスペースをとる都合上、区名が横書きに変わり、また街区符号の「番」が省略されている。

この1988～89年という時期は、福岡市市民局総務部区政課による回答であるとともに、1988年12月1日発行の『福岡市政だより』でも確認できる。1989年3月から9月に福岡市で開催されたアジア太平洋博覧会（よかトピア）に備えて、10万枚以上が短期間でローマ字併記の表示板に貼り替えられた。



出所：筆者撮影（2019年6月13日）

写真6 横書き板の例（打ち抜きと転写2種類）

横書き板の大部分は、裏から文字が打ち抜きされている（＝表面が凸）が、プリント転写されているもの（＝ほぼ平面）も徐々に増えている。

写真6は左が早良区百道の打ち抜き板、真ん中と右が百道の転写板の例である。転写板は全体に光沢があり、ローマ字部分が左寄せされている傾向が見られる（特に右の板¹¹）。

福岡市では現在、新規の住居表示も欠損分の貼り替えも、転写板のみが利用されているようである。筆者の現地調査によると、2005年6月に住居表示が実施された西区室見が丘の街区表示板が打ち抜き板の最後であり¹²、翌年の10月に住居表示された西区富士見の街区表示板が転写板の最初である。それ以降は、新規であれ貼り替えであれ、転写板が設置されている模様である。

7. 福岡市の街区表示板の種類

これまでの記述をまとめると、福岡市の歴代および現在の街区表示板は、図表2のように整理できる。

11 下部の印字がかなり小さい、この特徴的な転写板と同じ仕様のものを、2020年7月に南区長住で見つけた。同じ業者が製造しているに違いない。

12 新興住宅街である室見が丘は1丁目から3丁目までであるが、街区表示板は1丁目の1～13番のみに存在する。この室見が丘1丁目1～13番は、比較的早く居住が始まった「西区金武福岡ハイタウン自治会」の範囲である（現地の住宅案内図より）。

設置期間	1962~63	1964~72	1972~73?	1972?~82	1982~88/89	1988/89~現在
板名	[a] 珫瑯板	[b] 区なし鉄板	[c] 区あり鉄板	[d] 5区板	[e] 7縦板	[f] 横書き板 (現行板)
サブ・別名		& [g] 区のみ鉄板		[h] 旧区板 (旧西区等)		[i] 打ち抜き板 [j] 転写板
板の材質	鉄			アルミ		
末尾表示	○街区 ↓ ○番街区	○番(街区) ↓ ○番		○番		○&ローマ字
区名	なし			縦書き		横書き
行政区	(区なし)			東区	東区	
				博多区	博多区	
				南区	南区	
				南区→	平和3・5・小笹1	
				中央区	中央区	
				西区→	小笹2・3・笹丘	
			西区	城南区(新)		
				早良区(新)		
				西区		

出所：筆者作成

図表2 福岡市の街区表示板の変遷

- [a] 珫瑯板…珫瑯製で，下部にスポンサー名が入っている表示板（写真1・写真2）。1962年と1963年に住居表示された地区以外では，見つからない。
- [b] 区なし鉄板…鉄製で，区制が施行されるまでの表示板（写真3）。町名と街区符号が転写されている。最も古い区なし鉄板は，1964年6月に住居表示が実施された長浜で見ついている。また，平尾では中央区と書かれた，[g] 区のみ鉄板が見ついている。
- [c] 区あり鉄板…鉄製で，町名と街区符号に加えて，区名も印字された表示板（写真4）。区なし鉄板よりも，さらに希少である。
- [d] 5区板…5区が発足した1972年4月から（暫定），7区に再編成された1982年5月まで設置されていた表示板。その10年間，例えば早良区昭代は「西区」昭代であった（写真5：左）。このような表示板を，5区板の中でも特に[h] 旧区板とよぶ。5区板以降は，すべてアルミ製である。

[e] **7縦板**…福岡市が7区となった1982年5月から、1988～89年頃までの表示板。区名が縦書きで、ローマ字は記載されていない(写真5:右)。

[f] **横書き板**…1988年12月から1989年度に貼り替えられた、現行の表示板(写真6:左)。ローマ字併記のスペースの都合で、区名が横書きとなり、街区符号の「番」が省略されている。1989年3月から9月に福岡市で開催されたアジア太平洋博覧会(よかトピア)に備えて、この表示板に貼り替えられた。また、近年では打ち抜き加工(=[i] **打ち抜き板**)ではなく、プリント転写のもの(=[j] **転写板**)が増えている(写真6:中右)。2006年の住居表示実施以降は、転写板のみが設置されているようである。

8. 歩いて発見した旧表示板

筆者が2019年1月13日～2020年11月14日に調査した限りでは、福岡市内に少なくとも414枚の旧表示板([a]～[e])が存在し、その内訳は東区80枚、博多区109枚、中央区31枚、南区78枚、城南区43枚、早良区51枚、西区22枚である(発見後に消失した分を含む)。

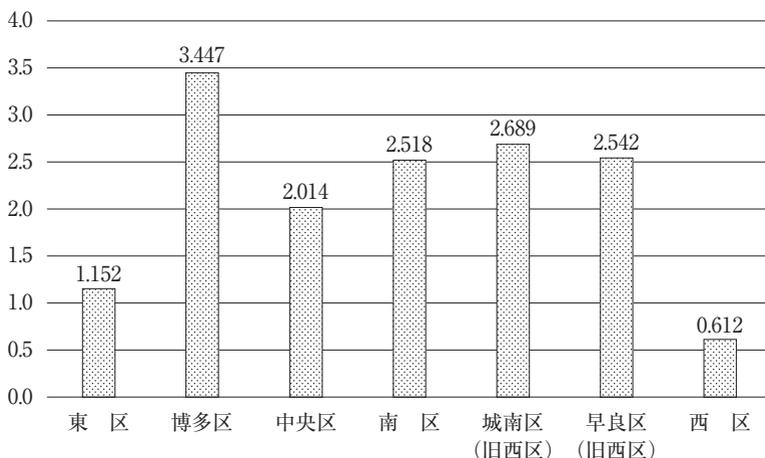
図表3では発見した旧表示板を、行政区別および[a] 珽瑯板、[b] 区な

設置期間	1962～63	1964～72	1972～73?	1972?～82	1982～88/89	2020/9/1現在(枚/km ²)		
	[a] 珽瑯板	[b] 区なし鉄板	[c] 区あり鉄板	[d] 5区板	[e] 7縦板	旧表示板計	面積(km ²)	旧表示板密度
東区	0	0	0	48	32	80	69.45	1.152
博多区	0	10	0	99	0	109	31.62	3.447
中央区	3	5	4	14	5	31	15.39	2.014
南区	0	2	1	51	24	78	30.98	2.518
城南区(旧西区)	0	5	0	0	38	43	15.99	2.689
早良区(旧西区)	0	3	0	6	42	51	*20.06	2.542
西区	0	0	4	6	12	22	*35.93	0.612
福岡市計	3	25	9	224	153	414	219.42	1.887

※入部出張所・西部出張所分を除く。

出所：筆者作成。1982年の行政区再編成により、それまでの南区平和3・5丁目・小笹1丁目、および西区小笹2・3丁目・笹丘1～3丁目は、すべて中央区に編入された。

図表3 発見した福岡市の旧表示板



出所：筆者作成。面積は、「福岡市推計人口」令和2年9月1日現在より。ただし、早良区は入部出張所の管轄面積、西区は西部出張所の管轄面積を除く。

図表4 旧表示板密度 (枚/km²)

し鉄板, [c] 区あり鉄板, [d] 5区板, [e] 7縦板にそれぞれ分けている。

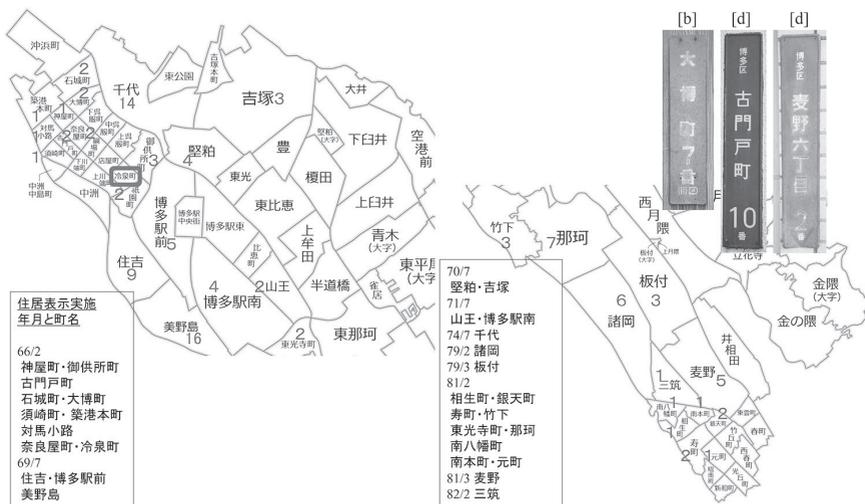
次に、区ごとの枚数を面積で除した「旧表示板密度」(図表4)を求めてみると、博多区3.45枚/km²、城南区(旧西区)2.69枚/km²、早良区(旧西区)2.54枚/km²、という順である。当然のことながら、発見した表示板の数が多く面積が狭い区の方が、より高い密度を示す。東区は面積が広いため、表示板の枚数は多いものの、密度は低い。

以下、7つの区の状況をそれぞれ概観する。

(1) **東区**(図表5)ではこれまで、[d] 5区板が48枚、[e] 7縦板が32枚見つかっている。

その中で、最も古い旧表示板は、1974年7月に住居表示された東浜(ひがしはま)と馬出(まいだし)に存在し、最も新しい旧表示板は、1987年5月に住居表示された土井4丁目と名子(なご)に存在する¹³。

13 土井では1丁目が1982年2月、2丁目と3丁目が1985年2月、4丁目が1987年5月に、それぞれ住居表示が実施されている。



出所：筆者作成，地図画像は「みんなの行政地図」

図表6 旧表示板の分布：福岡市博多区

同区では，[b] 区なし鉄板が10枚，[d] 5区板が99枚見つかっている。特に，美野島（みのしま）16枚，千代14枚，住吉9枚といった具合に，歴史ある住宅街・商店街の路地に旧表示板が集中的に見られる。一方その美野島では，同じ街区の家屋に貼ってあった5区板2枚が，取り壊しのため消失した。

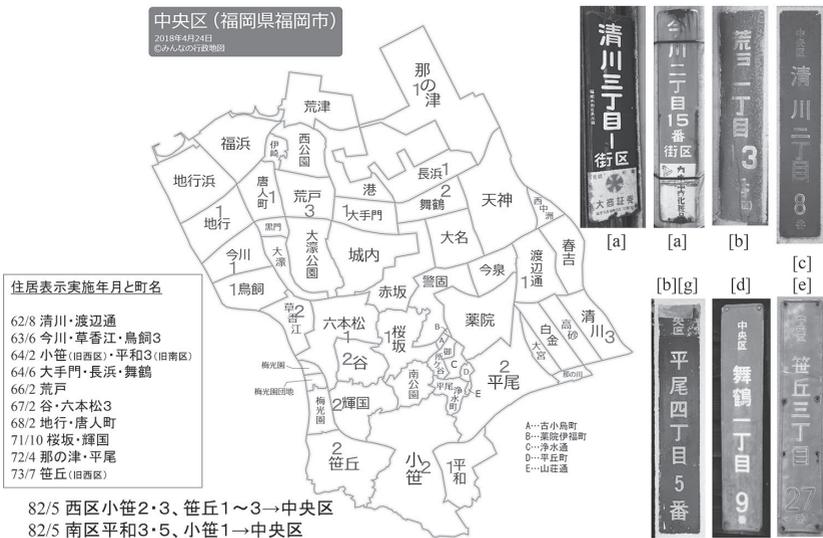
博多区の北部（旧博多部）に1966年から遣る区なし鉄板は，神屋町（かみやまち）1枚，御供所町（ごくしょまち）1枚，大博町（たいはくまち）2枚，築港本町（ちっこうほんまち）1枚の計5枚である。いずれの鉄板も，「番」の下に「(街区)」と横書きで表示され，字が太いのが特徴である。半世紀以上もまち案内として遣り続ける街区表示板は，大変貴重であるといえる。とはいえ前述のように，取り壊しや再開発を契機に，このような旧表示板は失われていく傾向にある。

長い歴史のある北部だけでなく，博多区の南部にも旧表示板が点在している。1979年初めに，諸岡や板付（いたづけ）において住居表示が実施されて以降，博多区南部では1980年代前半までに住居表示が完了した。この南部エリアで旧表示板が多いまちは，那珂（7枚），諸岡（6枚），麦野（5枚）などの住宅街である。

(3) **中央区** (図表7) ではこれまで, [a] 珙瑯板3枚・[b] 区なし鉄板5枚・[c] 区あり鉄板4枚・[d] 5区板14枚・[e] 7縦板5枚と, 7区の中で唯一, すべての種類の旧表示板が見つかっている。加えて平尾では前述のように, 中央区と書かれた [g] 区のみ鉄板も見つかっている。

中央区で最初に見つけた区なし鉄板は, 輝国 (てるくに) の山の上で, 横書き板とともに門の上に無造作に積まれていた。かなり劣化しており文字はうっすらとしか見えないが, 板の大きさと4つの穴の位置からして, 間違いなく区なし鉄板であった。福岡市中央区は「中央区」とはいうものの, 山や谷が多い (旧町名で〇〇谷が多い)。なお, その輝国の区なし鉄板は後日, 消失を確認した。

区あり鉄板は前述の清川と渡辺通だけでなく, 博多湾に面した須崎ふ頭の北端 (那の津5丁目) にも存在する。波が押し寄せる手前でこの鉄板を発見した時は, 本当に驚いた¹⁵。那の津における住居表示実施は1972年4月であり,



出所：筆者作成, 地図画像は「みんなの行政地図」

図表7 旧表示板の分布：福岡市中央区

15 筆者が須崎ふ頭を調査したのは日曜日であり, 工場などが休みでトラックもほとんど動いていなかったため自由に歩き, この鉄板を見つけることができた。

ちょうど区制施行のタイミングである。つまり、区あり鉄板は都心部だけでなく、海際まで貼られていたということになる。今後の調査で同種の鉄板が見つければ、もう少し類推できると思われる。

(4) **南区** (図表8) では、[b] 区なし鉄板2枚・[c] 区あり鉄板1枚・[d] 5区板51枚・[e] 7縦板24枚が見つかった。

筆者の住んでいるところから離れているため、当初発見数は少なかったが、何回か調査をすることによって数が増えてきている。現時点で旧表示板が多いまちは、日佐 (おさ) (9枚)、井尻 (7枚)、弥永 (6枚) であり、いずれも春日市との境に位置する。

1982年2月に住居表示された日佐・警弥郷 (けやごう)・的場・弥永・柳瀬については、博多駅と博多南駅を結ぶ博多南線 (車両は新幹線だが片道300円で乗車できる) の左右の橋脚に「ペア」で遺っている箇所が多い。これは、たまたまある所の信号待ちでペアを見つけて、そこから北と南に線路に沿って歩いた



出所：筆者作成、地図画像は「みんなの行政地図」

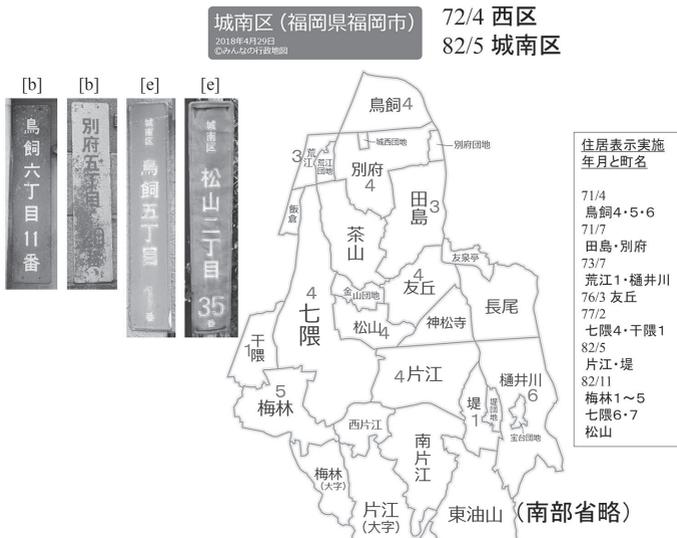
図表8 旧表示板の分布：福岡市南区

成果である。橋脚が金網に囲まれている場所も多く、5区板を横書き板に貼り替える作業が面倒だったのかもしれない。なお、博多駅以北の山陽新幹線の橋脚には、街区表示板は貼られていない。

南区にも1枚だけ皿山に、区あり鉄板が存在する。比較的新しい建物に貼られているため、前の建物からそのまま引き継がれたということであろう。文字がしっかり残っていることから、雨に当たりにくい軒下に貼られているなど、設置環境がよかったものと思われる。繰り返しになるが、旧表示板の中でも区あり鉄板の分布は、最大の謎である。

(5) **城南区** (図表9) はかつての西区から1982年に生まれた区であり、これまで [b] 区なし鉄板が5枚, [e] 7縦板が38枚見つかっている。西区時代の5区板は、不思議と1枚も見つかっていない。旧表示板が多い順では、樋井川 (ひいかわ) 6枚, 梅林 5枚である。

城南区の区なし鉄板は鳥飼・田島・別府 (べふ) に計5枚存在するが¹⁶, 1971



出所：筆者作成，地図画像は「みんなの行政地図」

図表9 旧表示板の分布：福岡市城南区

市営地下鉄空港線が地下を通る「明治通り」から少し北や南の路地に入っただけで、このような希少な旧区板に遭遇できる。

一方、早良区の南部では住居表示が実施されたのが1990年代であり、現行の横書き板のみが存在する。具体的な住居表示実施は、1990年9月重留（しげどめ）1～6丁目と東入部（ひがしいるべ）1丁目、1991年1月早良1～7丁目、1992年1月内野（うちの）1～8丁目と脇山1・2丁目、1993年2月田村1～6丁目と四箇（しか）1～5丁目、1999年10月重留7・8丁目、西入部（にしいるべ）1～5丁目、東入部2～8丁目、である¹⁷。

このうち、田村（のほとんど）と四箇以外はかつての早良郡早良町であり、福岡市に編入された最後の、そして最大のエリアである（1975年3月編入、75.81km²）。

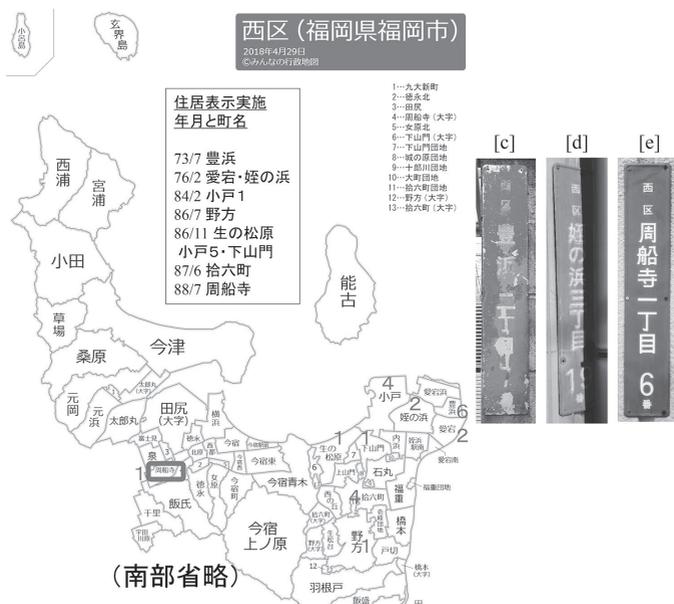
(7) **西区**（図表11）において筆者が見つけた旧表示板は、[c]区あり鉄板4枚、[d]5区板6枚、[e]7縦板12枚である。

西区は面積が広く、歩行調査がなかなかはかどらないものの、早良区のすぐ隣の豊浜で4枚も区あり鉄板が見つかったのは、大きな成果である。前述のように、これらはいずれも劣化が激しく、全体が読み取れるのは1枚だけであるが、かろうじて同じ仕様であることが確認できる。

西区では東区と同様、これまで区なし鉄板が見つかっていないが、それは当時、住居表示が実施されたまちがなかったからである。区制後の豊浜で1973年7月、愛宕と姪の浜で1976年2月に実施されたのが、西区における住居表示の先駆である。

一方、市営地下鉄空港線とJR筑肥線が乗り入れる姪浜駅に面した姪浜駅南1～4丁目と愛宕南1・2丁目の歴史は新しく、2002年10月に住居表示が行われたばかりである。このエリアでは長い間土地整理事業が行われ、2001年10月

17 「福岡市内住居表示実施一覧」が掲載された『福岡市史 昭和編資料集・続編（一）』には、1989年2月までの住居表示実施分が掲載されており、それ以降については紙媒体で公表されていない。そこで、福岡市のウェブサイトの「令和元年度区政概要」を参考に、福岡市総合図書館に所蔵する『福岡市議会議案』を入念にめくり、平成元年度以降の住居表示実施分をすべて確認した。



出所：筆者作成，地図画像は「みんなの行政地図」

図表11 旧表示板の分布：福岡市西区

に都市高速1号線の百道出入口～福重ジャンクション区間が開業し，現在のまちの構造に落ち着いた。

近年西区では，さらに西のエリアで人口が増えている。2005年9月にJR九大学研都市駅が開業し，その周辺の宅地開発が現在も進められている。2013年10月に西都(さいと)1・2丁目，および隣接するいくつかのまちで，住居表示が実施された¹⁸。2017年度に開校した西都小学校の児童数は，わずか3年で1.5倍に急増した¹⁹。そのような中で，2019年に西都地区新設小学校通学区協議会が発足し，2023年度の新しい小学校の開校に向けた準備が進められている。

18 現時点で，福岡市の最新の住居表示事例である。

19 西都小学校のウェブサイトに掲載されている「学校概要(令和2年6月1日現在)」によると，平成29年度の児童数は755人，令和2年度の児童数は1,132人である。

9. 旧表示板の状態の分類

約30年前に現行の〔f〕横書き板が設置されたにも関わらず、400枚を超える旧型の街区表示板が現存していることには、何らかの理由があると思われる。とはいえ、この問いに対して現時点で回答するには分析が十分でないため、あらためて別稿で取り上げたい。一ついえるのは、住居表示の実施が古いまちだからといって旧表示板が多いわけではない、ということである。

以下は、現時点で筆者が仮説的に考えている、旧表示板がまちに遺っている状態の分類である。まず、元の位置（とおぼしきところ）に原型のまま遺っているか否かで2つに分けてから（(A)と(B)）、調査の経験に基づいて、それぞれ4つに分けてみた。

(A) そのまま遺っている

- (A-1) 元の位置で遺っている、または新しい建物になっても遺っている²⁰
- (A-2) 意外なものに貼られて、そのまま遺っている²¹
- (A-3) 建物の一部と化している²²、またはものに囲まれて外せない
- (A-4) それまでの板または次の板とともに、並べられている

(B) 部分的に遺っているなど

- (B-1) 元の位置に破損して、あるいは折れ曲がって遺っている
- (B-2) 横書き板が重ねられ、一部がはがれている
- (B-3) 横書き板が重ねられ、全部がはがれ接着跡が遺っている
- (B-4) 元の位置を離れ、近くに放置されている

ここでは5つの項目を、写真とともに紹介する。

写真7は、(A-3) ものに囲まれたため旧表示板が外せなくなったケースで

20 新しい建物に貼り直されている場合や、新設のパイプに挟み込まれている場合などがある。

21 例えば、庭の樹木に直接貼り付けてあったり、細いポールに巻き付けてあったりするケースである。

22 例えば、家屋の柱や塀に深く埋め込まれている状況を指す。



出所：筆者撮影（2019年2月5日，同6月7日）

写真7 外せなくなった例（早良区・南区）



出所：筆者撮影（2019年3月19日）

写真8 並べられている例（博多区）

ある。左は建築物に囲まれ，右はカラフルな花に囲まれている。表示板の形をほぼとめているものの，その情報を読み取ることは困難である。いずれも，同じ街区の違う場所に横書き板が設置されており，表示板としての役割をすでに終えている。

写真8は，(A-4) それまでの表示板や次の表示板と並べられている例である。写真の左は窓枠に，5区板と横書き板が立て掛けてある様子である。ちな



出所：筆者撮影（2019年2月25日，同3月28日）

写真9 重ねられてはがれた例（城南区・西区）

みに，この家の塀には区なし鉄板も残存する（ただし表面がほぼ消失）。写真の右は，区なし鉄板の左下に5区板が設置されている。後者については，区なし鉄板をタイルに設置してから外すと穴の跡や接着跡が目立つため，そのまま設置してあるのかもしれない。

写真9は，上に横書き板が貼り付けられたあとで，(B-2) 一部あるいは(B-3) 全部がはがれた事例である。接着跡が表面に残るこのような表示板を，かなり多くの場所で見ることができる。写真の左は上部の約3分の1がはがれ，右はすべてはがれている。板が重ねられるのは珍しいことではなく，筆者は最多で4～5枚重なったものを見たことがある。はがすよりは接着する方が工程的に速いのかもしれないが，何らかの衝撃が加わってこのような形になりうる。

写真10は，(B-4) 近くに放置されている例である。閉鎖的な路地の一番奥に，旧区板（西区西新）と7縦板と横書き板の3枚が貼り付けられて，地面に「自立してい



出所：筆者撮影（2019年5月12日）

写真10 路地の奥で「立っている」例（早良区）

る」様子である。これはとりわけ珍しいケースであるが、現役の表示板のすぐ近くにそれまでの板がなんとなく置いてある光景は、多くの場所で見かける。やがてその表示板は処分される運命にあるが、長期にわたって公共物としての役割を十分に果たしたはずである。

10. 小 括：「創造的なまち歩き」へ

本稿ではまず、福岡県福岡市の住居表示施策を例に、街区表示板の変遷と種類を明らかにした。福岡市の街区表示板は、行政区名が横書きでローマ字併記のものが主流であるが、筆者が実際に歩き回って発見した414枚の旧表示板は、区制が施行される前のもの、つまり区名が書かれていないものや、区名が縦書きのものである。そして、調査の経験に基づき、このような旧型の街区表示板が遺っている状態を仮説的に分類した。より細かい考察は、別稿で行う予定である。

本稿のように、特定自治体の街区表示板を徹底的に「収集」し、その特性を論じた研究は、筆者が知る限り皆無である。今尾（2017）は、住居表示や街区表示の制度に関して非常に詳しいが、街区表示板の新旧の違いまではふれていない。

また、大正14年から昭和3年に製造されたと推定され、今も京都市内などに多く残る「仁丹町名表示板」については、例えば井出（2017）が論じている。写真11は、筆者が京都市内で見かけた町名表示板の例である。同市は住居表示を実施していないため、これは街区表示板ではない。

現行の表示板も古い表示板も、旧区の表示やローマ字の有無を除けば、まちに関する同じ情報（町名・街区符号）を提供している。その有用性の観点からすると、どちらの板が貼ってあっても構わない。その一方で、依然として多くの古い表示板が残っているという事実をもとに、新しいまち歩きの「チェックポイント」として活用することを提案したい。

ガイドブックを持って、あるいはガイドを雇って歴史ある建物を見て歩くことも楽しいが、そこに行けば必ず目的物があるため、意外性に乏しい。また、



出所：筆者撮影（2019年9月19日）

写真11 京都市内に残る仁丹町名表示板

提供される情報はガイド（ブック）の主観に左右され、ガイドを受ける側は、現場での「確認作業」で終わってしまいがちである。

それに対して、変わった街区表示板を探してまちを歩くことは、体力と感覚をフル活用して、まちの中の面白いところを見つけようとする「探検」である。たとえ変わった表示板に遭遇しなくても、それよりも衝撃的な、もしかして自分が第一発見者かもしれない、周りの人に教えたくくなるような「何か」があるかもしれない。

そこに、「創造的なまち歩き」の可能性が生まれる。ガイドブックに載っていない、まちへの新たなアプローチが生まれる。

通常の建物はそこに何年建っているか、入口に竣工日が明記されているビルやマンションでなければすぐにわからないが、街区表示板の設置年数は、住居表示実施や分区の時期によってほぼ特定できる（最新の転写板は難しいが）。つまり、そのまちの歴史を、現存する表示板の分布と種類で推理することができる。

住居表示が行われたまちであれば、街区表示板はいろいろなところに貼られている（ごくまれに例外もある）。もしまち歩きに熱中して道に迷ってしまっ

たら、近くの街区表示板を探して、手元の地図やスマートフォンのアプリで位置を確認すればよい。そもそも、表示板はその実用性からつくられている。

最後にもう一つ、まち歩きのとくに注目してほしいものを紹介する。それは写真12のような、電柱に留められている「NTT 電柱番号札」である。



出所：筆者撮影（2019年2月2日）

写真12 NTT 電柱番号札の例

ほとんど知られていないことであるが、この電柱番号札には、住居表示以前の古い町名やかつて存在した施設名が残されている場合が多い。この写真は、福岡市早良区室見の一部で見かける、1934年6月から1971年2月まで存在した「飛石町」（1～3丁目）の名残である。街区表示板と同様、NTT 電柱番号札はそのまちの歴史を現地で伝え続ける、貴重なチェックポイントである。

謝 辞

本稿は、地域活性学会第11回研究大会（長崎県大村市コミュニティーセンター、2019年9月14日）で口頭報告した内容を基礎としている。会場にご出席の方々からいただいた数々の有益なコメントに、あらためて御礼申し上げる。

その口頭報告の後に現地調査を再開し、旧表示板の発見数は当時の107枚から414枚へと、4倍に増えた。したがって、本稿の内容は口頭報告の時点からさらに充実したものとなっている。

参考文献

- [1] 井出文紀（2017）「仁丹のある風景―戦前における仁丹町名表示板の設置状況をめぐって―」『大正イマジユリィ』第13号、6-34頁。
- [2] 今尾恵介（2017）『番地の謎』光文社知恵の森文庫。
- [3] 塔文社（1961）『福岡市街図』。
- [4] 樋口庄造（2015）『旧国鉄筑肥線 そここに駅があった』西日本新聞社。
- [5] 日高三朗・保坂晃孝（2014）『博多 旧町名歴史散歩』西日本新聞社。
- [6] 福岡市（1983）『福岡市史 昭和編資料集・前編』川島弘文社。
- [7] 福岡市（1984）『福岡市史 昭和編資料集・後編』福岡印刷。
- [8] 福岡市（1990）『福岡市史 第9巻・昭和編続編（一）』福博総合印刷。

- [9] 福岡市（1997）『福岡市史 昭和編資料集・続編（一）』秀巧社印刷。
- [10] 福岡市『福岡市議会会議録』『福岡市議会議案』『福岡市政だより』各号（福岡市総合図書館所蔵）。
- [11] 福岡市行政区画審議会（1980）『福岡市行政区再編成に関する答申』（福岡市総合図書館所蔵）。
- [12] 福岡市市民局市民部区政課（1979）『福岡市の行政区画 ― 町・大字の現状 ―』（福岡市総合図書館所蔵）。
- [13] 福岡市総務局編集（1979）『福岡の歴史（福岡市史普及版）』正光印刷。
- [14] 福岡人文社（1980）『福岡市区分地図⑤ 西区』。

参考ウェブサイト

- [1] e-Gov（電子政府の総合窓口）〈<https://www.e-gov.go.jp/>〉
- [2] 街区道 〈<http://www.gaikumichi.com/>〉
- [3] 京都仁丹樂會 〈<https://jintan.kyo2.jp/>〉
- [4] 福岡市：住居表示の概要，住居番号設定などの手続き
〈<https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/kusei/life/juukyohyouji.html>〉
- [5] 福岡市：区政概要
〈https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/kusei/shisei/kako_kuseigaiyou.html〉
- [6] 福岡市イタレア展示場 〈<http://itarare.seesaa.net/>〉
- [7] 福岡市立西都小学校 〈<http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/elsaitos/>〉
- [8] 「珙瑯看板」探索 〈<http://www7b.biglobe.ne.jp/~suzuha/kannbann1HP.html>〉